

第 1 回委員会における主な意見・確認事項

※本資料は第 1 回委員会の発言内容から、主な意見を論点ごとに抜粋整理したもの

資料 5
課題 (1)
に対応

◆計画の進捗管理について

- ・分かりやすく、計画の進み具合を実感できる指標を用いて進捗管理を行えることが理想であるので、現在の指標を修正することもありうる。
- ・「アウトプット指標」は事業の実施状況、行政がどれだけ事業を提供（実施）したか、「アウトカム指標」は事業実施の結果、市民や社会にどのような効果が生まれたか、というものである。
- ・計画の進捗を管理し、実施状況を把握していくにあたっては、質的な部分の評価も加えられると良い。
- ・地域におけるさまざまな活動は、武蔵野プレイスや行政が関知していないようなところでもなされている。まさに市民の自律・自立した活動であり、それを含めて「地域の力」とすることができる。

資料 5
課題 (5)
に対応

資料 5
課題 (3)
(4) に
対応

◆武蔵野プレイスについて

- ・吉祥寺地域・中央地域（武蔵野市の東部から中央部）の人にとっては、プレイス主催事業やプレイス登録市民活動団体の情報に接することが少ないため、武蔵野プレイスが少々遠い存在になっている。
- ・プレイス（〈公財〉武蔵野生涯学習振興事業団）としては、今後、コミセン・地域のニーズを把握するとともに、主催事業をコミセンなどのプレイス以外の会場で実施することも検討する。
- ・市民が武蔵野プレイスに期待することは大きい。

◆多様な主体の連携について

- ・プレイス登録団体など分野ごとの市民活動・NPO団体とコミセン、市内の団体同士が連携を取れると良い。交流会のような場を設定しても良いのではないかな。
- ・団体の財政的な自立という点では、企業などとの連携ということ、市民（個人）自らが活動を支援する意識を持ってもらうことも考えるべきではないか。

資料 5
課題 (3)
に対応

資料 5
課題 (2)
に対応

◆活動の担い手不足について

- ・子育て世代は活動の意思あるが、条件的に難しいことが多い。子育て世代の人脈や能力を生かせる仕組み、活動場所を欲している若い世代と彼らが活躍できる場とを結びつけるような仕組みが必要ではないか。
- ・PTA活動は、子育て世代と地域とのつながりが生まれる機会であり、現在でも地域活動のきっかけになり得るが、子どもの小学校入学以前から地域における事業や活動に参加していると、PTA活動に参加した段階で地域のつながりができているためPTA活動に携わりやすくなり、そこから地域活動に発展していくことが期待できる。

◆コーディネーターについて

- ・市民活動、地域コミュニティ、福祉などさまざまな分野で「コーディネーター」の必要性などがうたわれている。「コーディネーター」の議論は必要である。
- ・地域ごと、あるいは、地域を超えてのプラットフォーム機能のある場に「コーディネーター」がいて、さまざまな相談に対応し、個人と団体・活動の場、個人同士、団体同士などをつないでいけると良い。たくさんの情報があるなかで、その人（団体）に必要なものを選択し、提供してもらえると市民活動の活性化につながるのではないかと。

◆行政への期待

- ・市民活動促進政策とコミュニティ政策がもう少し近づいても良い。
- ・行政内部における連携促進、市民とともに活動する意識の涵養、ひいては市民活動活性化のために、「コーディネーター」といえる行政職員がいた方が良い。
- ・「コミュニティの自主三原則」に縛られず、行政職員も地域において市民と一緒に活動し、時間を共有してほしい。